

令和元年6月18日現在

機関番号：27101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02944

研究課題名(和文) 聞き取り及び日記の分析を用いた米国ユダヤ人史、公民権運動史の研究

研究課題名(英文) Developing a New History of the Civil Rights Movement and American Jews: Based on Interviews and Diaries

研究代表者

北 美幸 (KITA, MIYUKI)

北九州市立大学・外国語学部・教授

研究者番号：80347674

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：ユダヤ人は、アメリカ合衆国人口の2～3%を占めるに過ぎないが、1950～1960年代に展開されたいわゆる公民権運動の白人ボランティアのほぼ半数を占めていた。これまでの北美幸の研究では大学の学生新聞等を主な史料としていたため、本研究では、参加経験者本人に対する聞き取りや活動日誌を活用して研究を行った。そのことにより、改めて公民権運動の担い手がカリスマ性のある活動家や大きな組織だけではないことを確認し、ユダヤ人、特に大学生などの若者を中心とした所謂「リベラルな白人」の貢献があったことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来、公民権運動はマーチン・ルーサー・キング牧師が率いた運動、あるいは「黒人の黒人による黒人のための」地位向上運動と捉えられがちであった。しかし、ユダヤ人は米国人口の2～3%を占めるに過ぎないが、運動の白人ボランティアのほぼ半数を占めていた。本研究では、参加者本人に対する聞き取りや活動日誌を活用し、公民権運動の担い手が著名な活動家や大きな組織だけでないことを確認するとともに、ユダヤ人、特に大学生などの若者を中心としたリベラルな白人の貢献があったことを明らかにした。具体的には、1965年にサウスキャロライナ州で有権者登録運動に参加した人物の当時の日記および本人への聞き取りを基に研究を発展させた。

研究成果の概要(英文)：About half to two-thirds of the white volunteers in the civil rights movement were Jewish. Considering the fact that the proportion of Jews among total population is about 2-3 percent, this figure underscores how enthusiastically they have participated in civil rights causes. Though Miyuki Kita's previous studies have used student newspapers as their main primary sources, she has tried to conduct interviews as well as referring to the diaries of the former civil rights workers. Her study revealed that most of the activists are not charismatic and eloquent leaders or from the large organizations: They were ordinary local high school students, housewives, or college students from the North. It also revealed that the participation of liberal white youth, especially Jewish college students, contributed to accomplish the movement.

研究分野：アメリカ史

キーワード：アメリカ史 公民権運動 ユダヤ人 黒人 アフリカ系アメリカ人 人種・エスニシティ 投票権 聞き取り

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 公民権運動は、アメリカ合衆国の歴史の中で最もダイナミックな社会運動のひとつである。その盛り上がりの頂点ともいえる「職と自由を求めるワシントン大行進」50周年を記念した2013年8月28日の集会には、何万人もの人々がリンカン記念堂に集い、キング牧師の「私には夢がある」演説が行われたのと同じ午後3時には、オバマ大統領(当時)が演説をおこなった。

従来、米国においてすら、公民権運動はキング牧師が率いた運動、あるいはそうでなくても、「黒人の黒人による黒人のための」地位向上運動と捉えられがちであった。そのような傾向に対し、公民権運動は、キング牧師が指揮した1955年のアラバマ州モンゴメリでのバスボイコットの際に突然始まり、64年(公民権法成立)あるいは68年のキング牧師暗殺で終わった訳ではなく、またその担い手もカリスマ性のある活動家や大きな組織だけではないことに目が向けられてきている。

(2) このうち、前者(時期)については、2004年のアメリカ歴史家協会会長講演においてJ. D. Hallが提唱した「長い公民権運動(long civil rights movement)」という言葉に端的に表現されている。これは、1930年代後半から1980年代に至るリベラリズム、ラディカルズム興隆期的一部分として、「公民権運動期」をより長いスパンでとらえようとするものである。後者(担い手)については、V. L. Crawford(1993)、M. A. Rothschild(1979)、R. L. Blumberg(1990)、C. Curry(2002)など、白人を含む女性の運動参加者に関しては、細々とながら、様々な著作が発表されてきた。その意味では、著名なリーダーでない者や文字通りの「皆」が、この時代をどう生きたのかについて描いた著作は存在している。とはいえ、それらは、学術的研究というよりもジャーナリストの著作やフィクション(小説)、当事者の回想録等が多いという現状があった。

(3) このように時期・担い手など公民権運動の「多様な」側面に目が向けられつつある中で、合衆国人口の2~3%を占めるに過ぎないにもかかわらず白人ボランティアの半数~3分の2を占めたとされるユダヤ人の公民権運動への貢献については、意外にも、歴史学の方面からの本格的な研究はほとんどおこなわれてこなかった。主な研究は、南部史(C. Webb(2001)、M. K. Bauman(1998)、R. A. Mohl(2004))あるいは、ユダヤ教学・哲学(K. L. Marcus(2010)、J. Jacobs(2010、2011))の面からおこなわれたものである。アメリカ・ユダヤ人は、全人口約600万人のほぼ半数がニューヨーク州に居住していることから、主に南部で展開された公民権運動への関わりについての研究が手薄になっていたと考えられる。なお、南部におけるユダヤ人人口は、南部総人口の0.1~0.2%程度であると言われている。

(4) こういった問題意識から、北美幸は、これまで1940年代後半のニューヨーク州におけるユダヤ人の差別撤廃運動、機会拡大のための運動について研究してきた経験を生かし、平成23~25年度科研費若手(B)「公民権運動における『多様性』:ユダヤ系の場合」において、人種隔離制度の撤廃およびその徹底に向けてのユダヤ人の活動に関する研究を行った。特にその中では、ユダヤ人たちの運動は、1960年のランチ・カウンターでの座り込み、1961年に始まったフリーダム・ライド(長距離バス車内およびターミナルでの人種隔離撤廃運動)、1964年、65年にミシシッピほか南部諸州で行われた投票権登録促進運動のほか、学校に通えない黒人の子どもたちのために設けられたフリーダム・スクールの教師など、公民権運動のあらゆる局面に及んでいたことを明らかにした。本研究はその後継として、史料として元参加者本人への聞き取りや活動時の日記の活用を試みるものであった。

## 2. 研究の目的

(1) 北美幸のこれまでの研究は、大学の学生新聞や地方の新聞など、公刊あるいは公刊に近い紙媒体の史料に拠っていたが、本研究では聞き取り調査・活動時の日記の分析を主要方法とした。そのことで、公民権運動が「黒人の黒人による黒人のための運動」ではなく多様な主体によって担われ、「平等」「自由」「正義」が希求されていたことを改めて確認し、【公民権運動史の研究として】著名なリーダーでない者や、文字通りの「皆」が参加した、「下からの」運動としての公民権運動をより鮮明に描くとともに、【アメリカ・ユダヤ人史の研究として】アメリカ・ユダヤ人による「社会的正義に対する信念」の追求およびユダヤ人としての自己認識、さらにはユダヤ人内部の意見の多様性(南部に居住するユダヤ人は、人種差別主義者に襲われる恐れから、概して公民権運動には消極的であったと言われる)の実像に迫ることを目的とした。

(2) 特に に関していうと、ボランティアとして南部諸州に赴き黒人と生活を共にしたり、学生として北部の地元で活動したりしたユダヤ人若年層の多くは、自らをユダヤ教徒と深く認識していなかった。それゆえに、本人や関係者に聞き取りを行う本研究の手法が特に有効であると考えた。具体的には、南部に赴き滞在したユダヤ人として、1964年の ミシシッピ・フリーダム・サマーおよび1965年の SCLC-SCOPE(Southern Christian Leadership Conference-Summer Community Organizing and Political Education)計画における有権者

登録促進運動のボランティア活動家およびフリーダム・スクール（黒人の子どもたちのための無料の学校）の教師、また、ユダヤ人が住んでいた地元での、有権者登録促進運動および黒人の子どもたちのチュータリング（家庭教師）、公民権運動を支えるための断食等、を検証することとした。

### 3. 研究の方法

(1) これまでの北美幸の研究により、ユダヤ人たちの公民権運動への参加は、1960年の「座り込み（人種隔離されたランチ・カウンターで、食事の給仕を求めて座り続ける）」、1961年に始まった「フリーダム・ライド（長距離バス車内およびターミナルでの人種隔離撤廃を求める）」、1964年、65年にミシシッピほか南部諸州で行われた有権者登録促進運動のほか、学校に通えない黒人の子どもたちのために設けられたフリーダム・スクールの教師など、あらゆる局面に及んでいたことが明らかになった。本研究では、中でも特にユダヤ人の参加が多かった以下の事柄を対象に検証を行った。

(2) まず、課題として、南部で展開された活動に着目した。アメリカ合衆国では、成年に達するだけでは投票できず改めての有権者登録が必要であるが、南部の多くの州では、黒人の登録を阻止するための「識字テスト」が実施されていた。さらには、地元の白人や、ときに地元警察による嫌がらせや脅迫もあったため、黒人の有権者登録率は著しく低かった。本課題では、南部黒人の有権者登録率および生活全般の向上を目指して行われた、1964年のミシシッピ・フリーダム・サマーおよび1965年のSCLC-SCOPE（Southern Christian Leadership Conference-Summer Community Organizing and Political Education）計画における有権者登録促進運動のボランティア活動家およびフリーダム・スクール（黒人の子どもたちのための無料の学校）の教師の二つの活動を取り上げた。

(3) また、課題として、北部都市（ユダヤ人が多く住んでいた地元）で展開された活動にも着目した。研究を行う中で、ニューヨーク市立大学クイーンズ・カレッジの図書館に、公民権運動に参加した当時の在学生や卒業生などの関係者が資料を寄贈していることが判明し、同大学の事例を中心に北部都市での公民権運動の展開をさらに詳しく考察する別の科研課題（国際共同研究強化）に採択され、現在はその研究をおこなっている。

### 4. 研究成果

(1) 平成27年度から30年度にかけての本研究において、これまで北美幸がおこなってきた白人ボランティアとして公民権運動に参加したユダヤ人の大学生・若者について、参加経験者本人に対する聞き取り調査、活動日誌、その他一次史料（書簡、ノート、本人が撮影した写真等）を積極的に入手し、分析を行った。応募年度の平成26年度はミシシッピ・フリーダム・サマー50周年であったため、同窓会・記念行事への出席等をおこなった。

(2) 平成27年度は、SCLC-SCOPE計画50周年であったため、課題に力を入れた。同計画50周年の記念同窓会に参与観察し、その場で元参加者に聞き取りをおこなった。同計画元参加者のリン・ゴールドスミス氏が1965年にサウスキャロライナ州に滞在した10週間につけた240ページ以上にわたる手書きの活動日誌を入手し、同氏に聞き取りもおこなった。これらを元に、28年3月に単著を出版した。

(3) 平成28年度には、課題について、さらに学会での発表をおこない、研究者からのコメントを得た。引き続き、ユダヤ人の元公民権運動家とのコンタクト（インタビューの承諾および当時の日記や写真の発掘）もおこなった。

(4) 平成29年度には、課題とについて二度、国際学会で口頭発表することにより、日本では得られないユダヤ学からの見地からのコメントを得た。

(5) 平成30年度には、課題について追加的な資料収集、現地視察・調査をおこなった。なお、平成30年度中に執筆・投稿した論文が採択され、本年（令和元年）8月頃に出版される予定である。

(6) 研究期間全体を通じて、平成28年に単著を出版したことにより、全体が順調に進行するとともに、本課題を基課題として別の課題（科研・国際協同研究強化）および後継の課題へとスムーズに移行している。

特に、研究目的【アメリカ・ユダヤ人史の研究として】アメリカ・ユダヤ人による「社会的正義に対する信念」の追求およびユダヤ人としての自己認識、さらにはユダヤ人内部の意見の多様性（南部に居住するユダヤ人は、人種差別主義者に襲われる恐れから、概して公民権運動には消極的であったと言われる）の実像に迫る、については、北部出身の大学生であった参加者は、ユダヤ人としての自己認識が希薄である場合が多かったことから、より自らのユダヤ人性を意識した組織や個人に着目した研究を今後進める予定である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件)

Miyuki Kita, “A Foot Soldier in the Civil Rights Movement: Lynn Goldsmith with SCLC–SCOPE, Summer 1965,” *Southern Jewish History*, vol.22, 2019, 受理済み、校正中。査読有

北美幸「ある白人女子学生公民権活動家の日記：1965年夏」『西洋史学論集』（九州西洋史学会）第52号（2015年3月）、61 - 75頁。査読有

〔学会発表〕(計 7 件)

Miyuki Kita, “The Power of Immigrants to Make America Great: With Special Reference to Jewish Commitment to the Civil Rights Movement,” Multinational Institute of American Studies 2019 Conference, New York University Florence, Italy, 2019年3月24日。

北美幸「『名もなき』運動員の日記から読む米国公民権運動」人権思想研究会、九州大学西新プラザ、2018年2月10日。

Miyuki KITA, “Bringing “Tikkun Olam” across the Border: Mississippi Freedom Summer through the Eyes of a Queens College Jewish Student,” 42nd Annual Southern Jewish Historical Society Conference, Cincinnati Campus of Hebrew Union College – Jewish Institute of Religion, Cincinnati, OH, 2017年11月4日。

Miyuki KITA, “Conveying Justice to the South: American Jews in the Civil Rights Movement,” British Association for Jewish Studies Annual Conference 2017, University of Edinburgh, Edinburgh, UK, 2017年7月10日。

北美幸「公民権運動に参加したユダヤ人たちの関わり」シンポジウム「黒人女性の視点から再評価する公民権運動 人種、ジェンダー、階層、宗教による差別解消と正義を求める運動との有機的関連」日本西洋史学会第67回大会、一橋大学、2017年5月21日。

北美幸「運動員の日記から読む米国公民権運動 民衆史のなかの民衆史？」七隈史学会第18回大会、福岡大学、2016年9月24日。

北美幸「ユダヤ人の公民権運動への参加 リン・ゴールドスミス、ブランダイス大学、SCLC-SCOPE」アメリカ学会第49回年次大会、国際基督教大学、2015年6月7日。

〔図書〕(計 2 件)

北美幸「『街頭の政治』としての米国の公民権運動」、阿部容子、北美幸、篠崎香織、下野寿子編『「街頭の政治」をよむ 国際関係学からのアプローチ』法律文化社、2018年、50-67頁。

北美幸『公民権運動の歩兵たち 黒人差別と闘った白人女子学生の日記』彩流社、2016年、301頁。

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年：

国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。